

間に1回、化学療法を施行していた。H17年7月頃から、下肢にシビレと浮腫があり、8月10日頃より下肢の動きが悪く、排尿もないため、8月12日入院となる。入院後、1%リドカイン持続点滴、利尿剤を使用し症状コントロールを行った。歩行リハビリ施行、9月8日に外泊。家族は退院を拒否するが、本人の強い希望によりそのまま退院となる。【考察・まとめ】在宅へ移行するための看護者の役割として ①患者と家族の意思・希望を確認する。②症状コントロールを行う。③介護力の調整。④緊急時の体制づくり。が重要であることを学んだ。

20. 終末期患者の自律を支援した看護

赤坂季巳江, 堀越美智代, 五十嵐千代子

星野 洋子, 金子 直美

(桐生厚生総合病院 5階西病棟)

【はじめに】患者がその人らしい日常生活を送れるようにするためには、患者、家族の希望に沿った援助をすることが望ましい。今回、除痛が図れた事で、排泄の自律に意欲をもち、本人の意思に沿った看護ケアが行えたので報告する。【事例紹介、経過】S氏、55歳女性、右乳癌、骨転移。平成15年乳癌手術施行、化学療法のため入退院を繰り返していた。癌性疼痛出現によりオキシコンチン内服開始。今回入院後はモルヒネ、オリベスK持続投与開始となった。入院時より体動困難ありバルン挿入していた。除痛が図れてきた時期に患者、家族からバルン抜去の希望があり、抜去後の排泄方法について話し合い、抜去を試みた。その後死亡する2日前、意識レベル低下するまで、オムツによる排泄を行った。【考察】患者が何を望んでいるのか、その思いに耳を傾け、患者、家族と共に排泄方法について話し合っていた事が、自分で自分の排泄方法を決めるという排泄の自律につながったと考える。患者がその人らしく最後を迎えるために必要なプロセスとして何を望んでいるのか、何を目標としているのかという意向や価値観を知り共有することは看護支援を行っていく上で重要である。患者自身が自己決定＝自分のことは自分で決める(自律)＝する事が最期の時まで生きる気力につながると考える。そして“自律”は患者、家族の関係においても生きてきた証となり、安らかな死を迎える事ができるのではないかと考えられた。

21. 家族間の軋轢を乗り越え在宅死を迎えた1例

宮前 芳枝, 大屋千代子, 宇賀神京子

(前橋赤十字訪問看護ステーション)

清水 政 (同 外来師長)

古屋 敦子 (同 看護専門学校専任教諭)

土屋 道代, 岡野 幸子, 徳世由美子

津久井利恵, 西郷 純子, 小保方 馨

田中 俊行, 阿部 毅彦

(同 かんわ支援チーム)

【はじめに】国民健康調査の結果、国民の過半数は在宅死を望んでいる。しかし、癌患者の在宅死亡率は6%と非常に低い。ここ数年でホスピスという言葉が浸透してきたが、ホスピスの目指すところは症状緩和だけでなく、患者ができるだけ最後まで通常の日常生活を送れるように支援することである。今回、家族関係の悪化から在宅療養の危機を迎えたが、患者の希望通り在宅死を迎えた1例を経験したので報告する。【事例紹介】A氏、91歳、女性。平成17年1月、十二指腸に浸潤した膀胱癌で癌性腹膜炎と診断された。長男と長男の嫁(主介護者)との3人暮らし。娘が2人市外に在住していた。【経過】入院中は食事摂取不能でADLもベッド上での生活であった。平成17年2月、HPNが開始され在宅療養となった。退院後、食事も摂れるようになり趣味を楽しむまでADLが拡大した。体動が広がるにつれCVカテーテルが邪魔となり抜いて欲しいという希望が出てきた。主治医や家族と相談した結果、4月、HPNが中止となった。娘の家に泊まったり、温泉に行き楽しむ様にまでなった。7月、体調悪化に伴い「嫁が毒を盛っている」等介護者への中傷が増加した。痛みの増強に対しては疼痛緩和を行い、最後まで好きなものを食べ、トイレで排泄していた。8月、家族に囲まれ永眠された。【考察】A氏は、「家が一番だ」と常々言い決して入院を希望しなかった。その反面、介護者に対しての悪口もあり介護者との関係を悪化させていた。A氏の希望を叶えるために訪問看護師2人で訪問し、患者・介護者それぞれの言い分を充分に聴いて対応した。その後、家族間で話し合いがもたれ、「遣り残したことがあるから百まで生きたい」と言っていたA氏が、「もう遣り残したことがない」と祭壇用の遺影を選び、色紙に唄をしたため最期を迎えた。死後、介護者から「最後まで本人らしく家で過ごし、看取れて良かった」との言葉が聞かれた。在宅緩和医療では、患者と家族との信頼関係がとても重要であり、その関係の良し悪しが患者の人生最期の舞台、幕の引き方、患者亡き後の家族の生き方も左右する。この事例は、訪問看護師2人で訪問したことが患者・家族間の軋轢の軽減に繋がり、患者の希望を叶えながら在宅死を迎える事が出来たのではないかと考える。